

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター



環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2020年度 冬期概要

2020年度冬期の結果の概要

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の2020年度冬期（2020年12月-2021年2月）の概要をお知らせします。

個体数は前年冬に引き続き増加

2020年度冬期調査は、2020年12月1日から2021年2月28日までの期間に実施しました。新型コロナウイルスの緊急事態宣言等により一部のサイトで調査が見送られましたが、全国108か所のサイトで調査を実施しました（前年冬期は113サイトの参加）。

最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の集計は、シギ・チドリ類41種48,157羽、その他の希少種では、ツクシガモ5,778羽、ヘラサギ95羽、クロツラヘラサギ448羽、ズグロカモメ5,493羽でした。一斉調査（2021年1月10日を基準日とした前後1週間内の調査）へは77サイトが参加し（前年冬期は92サイトの参加）、シギ・チドリ類37種18,975羽、ツクシガモ3,142羽、ヘラサギ19羽、クロツラヘラサギ198羽、ズグロカモメ2,923羽が記録されました。

1999年度以降の冬期調査における「全サイトの最大個体数の合計」と「調査が継続されているサイトのみの最大個体数の合計」を、図1に示しました。全サイトの最大個体数は、前年度冬期と比べ+7.5%増加し、継続サイト（39サイト）では前年度冬期と比べて3,228羽増加し3,059羽となり、+10.9%の増加でした。どちらの指標でも前年度の冬期調査に引き続き増加しています。サイト別では、

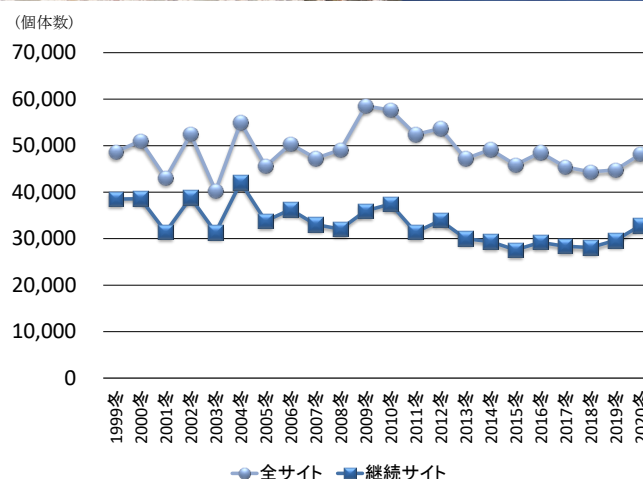


図1. 冬期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の推移（1999年から2019年の継続サイトN=39）

白川河口（熊本）、大授搦（佐賀）、加茂川河口（愛媛）など西日本で、個体数が増加したサイトが多くなっていました。今年冬期調査における優占種は、ハマシギ（70.3%）、シロチドリ（7.3%）、ダイゼン（6.4%）、ミユビシギ（3.0%）、ムナグロ（2.6%）でした（図2）。冬期の優占上位5種の順位に前年と比べ変化はありませんが、ハマシギの占める割合が約4%増加していました。

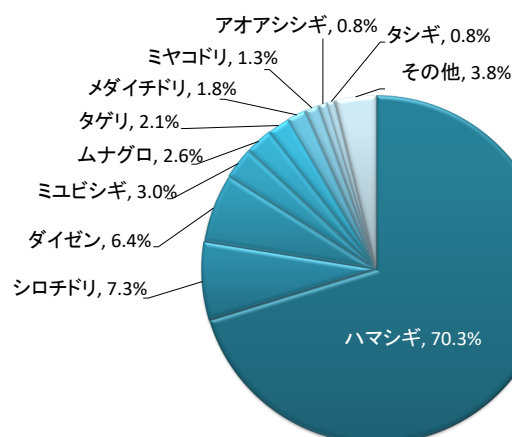


図2. 2020年度冬期調査の種構成

上位種の個体数の変化

優占種上位6種の冬期最大個体数の合計値を使って増減傾向を見るために、1999年度から2020年度までの記録をプロットし平滑化したラインを示しました(図3)。

ハマシギ、ムナグロは2010年度頃をピークに減少傾向にありましたが、近年はやや増加傾向に転じています。個体数の約70%を占めるハマシギが今年度の冬期の個体数増加に貢献していると考えられます。シロチドリは減少傾向が引き続いており、最小値を更新しました。ダイゼンは2005年度頃からの上昇傾向がやや頭打ちになってきており、今年度は昨年度と比較して減少していました。ミユビシギ、タゲリは2011～2020年度頃まで上昇傾向にありましたが、現在は減少傾向が続いています。また6種は、ハマシギ、ダイゼンは干潟、シロチドリ、ミユビシギは砂浜、ムナグロ、タゲリは農耕地・草地と越冬する生息環境が異なります。生息環境が同じ種の増減傾向は必ずしも一致しません。環境への依存の大きさが個体数変化に関係している可能性があります。

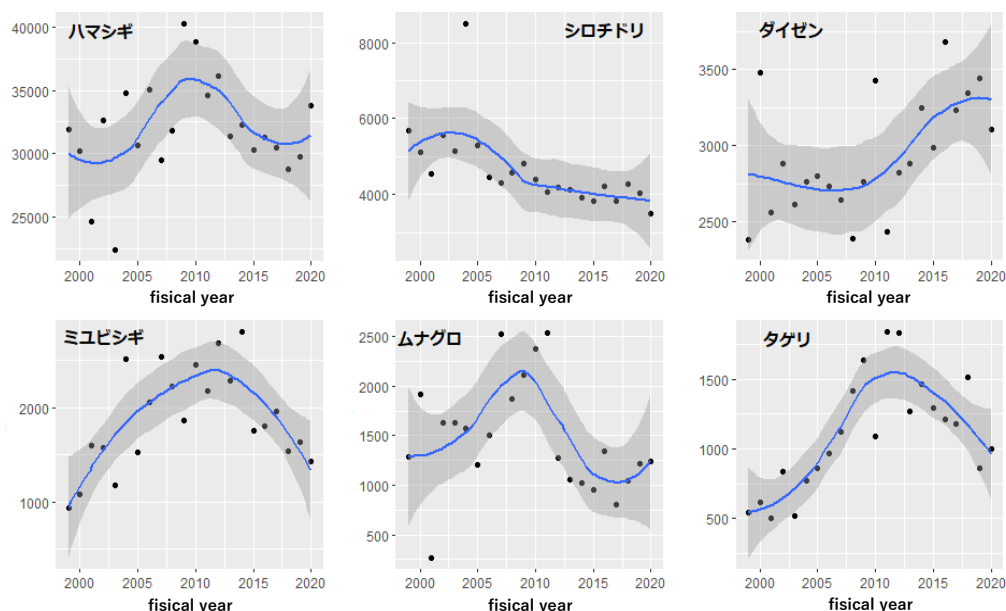


図3. 上位6種の1999年度から2020年度の冬期最大個体数の推移
青い線は平滑化した線。縦軸は個体数、種によって幅が異なる。

表1. ハマシギ個体数上位サイトにおける個体数の変化

ハマシギ 冬期	2019/20	2020/21	増加数	増加率
大授搦 (佐賀県)	6,420	7,600	1,180	118%
白川河口 (熊本県)	2,170	3,600	1,430	166%
中津干潟 (大分県)	2,300	2,989	689	130%
荒尾海岸 (熊本県)	1,386	2,593	1,207	187%
球磨川河口 (熊本県)	1,974	1,724	-250	87%
氷川 (熊本県)	1,690	1,373	-317	81%
三番瀬 (千葉県)	1,600	1,300	-300	81%
加茂川河口 (愛媛県)	738	1,200	462	163%
不知火干潟 (熊本県)	1,050	1,100	50	105%
吉野川下流域 (徳島県)	1,167	1,031	-136	88%
藤前干潟 (愛知県)	604	1,007	403	167%

どこでハマシギが増えているか。

今年度の冬期の調査で、ハマシギの最大個体数が1,000羽以上記録された調査サイトを表1にまとめました。11サイトが確認され、うち7サイトが前年度と比較して個体数が増加していました。増加数の多かった上位4サイトはいずれも九州地域でした。11サイトの増加数の平均は402個体で、比較的越冬規模の大きいサイトにおいて増加傾向がみられます。特に佐賀県の大授搦では、5年連続して前年度の個体数を上回っていました。個体数の少なくなってきたサイトから、規模の大きなサイトへ集中していく傾向があるのかもしれませんが、サイトの規模についても今後注目していきます。



写真1. ハマシギ

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:チシマシギ:野付湾(藤井薫) 2020年度 冬期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター <http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ <http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史 電話/Fax:042-401-8661 メール: shigichi@bird-research.jp